

## 特別じゃない

菱刈中学校 三年 柏原 優羽

「全ての人が幸せに生活するために行う社会の取り組みで特別な人だけじゃなく、すべての人が幸せに生活するために行っていること」

これが「福祉」の意味でした。家庭科の学習で、このことに触れたとき、私は、自分の身近なところはどうかろう、と考えるきっかけになりました。

私の地域では、「あいさつ運動」という地域全体で取り組む活動があります。この活動は、毎朝登校する生徒が、地域の人とのあいさつや声かけを通して、コミュニケーションをとったり、交通安全に配慮したりと地域の人たちが安心して暮らせる、まさに福祉の一環と考えられる活動です。

福祉は、人と人との関わりの中にあることだと思います。先日、「菱刈中サポーター」と呼ばれる民生委員や、児童委員の方々が「家庭科」の授業のサポートに来てくださる機会がありました。裁縫の授業で、上手く縫う縫い方や、作品を仕上げるコツなどベテランの方々のアドバイスで楽しい授業になりました。今まで、地域の方々が行事や授業参観に来られたことはありましたが、一緒に授業をすることは初めてで、いつもと違う楽しさを感じました。「どんな風に教えてくださいませんか。」「厳しいのかな。」など、少し不安もありましたが、

「この縫い方のほうがね、糸が見えなくてよかよ。」

と私の知らない方法も教えてくれました。私は、裁縫が得意ですが、何年も経験を重ねてこられた方の、経験を生かして教えてくれるやり方は、とても分かりやすかったです。上手くできたときは、

「縫い方がうまいね。」

と嬉しくなる言葉をかけてくれたり、ちょっと危ない時には、

「あん(危)なかよ。」

と優しく教えてくれました。こうしたアドバイスのおかげで、私はますます裁縫が好きになりました。そして、地域の方々が、こうして私たちのために時間を割いてくれていると思うと、もっと頑張ろう、とも思いました。こうした地域の方々と授業をする機会は、なかなかないかもしれませんが、こういう機会がもっとあれば関わりが増え、この関係を大切にしたいと思うようになるでしょう。

私たちは、地域の方々からの思いやりや支えによって、助け合いながら生きています。「一人一人が輝けるまち」になるためには、思いやりや気遣いが不可欠です。思いやりが溢れるまちは、みんなが生き生きと輝きます。そして、思いやりの行動ができる人はカッコいいです。

私は、この経験から地域のボランティア活動へ積極的に参加しよう、と思うようになりました。活動を通して、いろんな人にふれあい、だれもが幸せを感じられるよう、そのお手伝いができる人になりたいと思います。

何気なく暮らしている、この地域で私は、安心して生活しています。地域の方々には感謝しないといけないと思います。だから、あいさつ運動で、あいさつされたときは、いつもの倍心を

込めてあいさつしたいです。

地域を眺めてみると、「福祉」に支えられていることは特別なことではないことに気がきました。私たちは、家族や友達、先生方や地域のひとたちに支えられています。この町の温かさにもっと気付いてほしいです。この温かさを大切に、私は自分にできることをこれからもしていきたいです。あいさつや地域の行事への参加など、私の小さな行動が明日につながります。だから、私は今日も元気にあいさつします。

「おはようございます。」

と。